

くすり一口メモ

食事により影響を受ける薬剤

薬剤のなかには食事を摂ることによって薬の吸収が阻害され血中濃度が低下したり、反対に吸収が促進され血中濃度が上昇する薬剤があります。また空腹時に服用することで効果を示す薬剤もあります。このように薬剤のなかには食事の摂取の有無により効果に影響を及ぼす薬剤が数多く存在しています。これらの薬剤を、間違った用法で服用してしまうと、用量は正しくても想定している効果が発揮されず治療効果の減弱や副作用発現へと繋がるのが考えられます。それらを回避する上でも「食事により影響を受ける薬剤」について情報を把握しておくことは重要です。今回は、添付文書に食事の影響に関する記載のある内服薬についてまとめてみました。リスト作成にあたっては日本医薬品集2016年版（じほう）を用いました。

表 添付文書に食事による影響が記載されている薬剤

食事による影響	商品名	一般名	服用時間	薬効分類	添付文書の記載内容
食事により 吸収上昇	エクジェイド懸濁用錠	デフェラシロクス	空腹時	解毒剤	本剤の薬物動態は食事の影響を受けやすいため空腹時に服用し、服用後30分間は食事をしない。
	タシグナC	ニロチニブ塩酸塩水和物	食事の1時間以上前または食後2時間以降	抗悪性腫瘍薬	食後に投与した場合、血中濃度が増加するとの報告がある。
	タイケルブ錠	ラパチニブトシル酸塩水和物	食事の1時間以上前または食後1時間以降	抗悪性腫瘍薬	食後に投与した場合、CmaxおよびAUCが増加するとの報告がある。
	ヴォトリエント錠	バソパニブ塩酸塩	食事の1時間以上前または食後2時間以降	抗悪性腫瘍薬	食後に投与した場合、CmaxおよびAUCが増加するとの報告がある。
	ザイティガ錠	アピラテロン酢酸エステル	空腹時	抗悪性腫瘍薬	本剤は食事の影響によりCmaxおよびAUCが増加する。
	ゼルボラフ錠	ベムラフェニブ	添付文書参照	抗悪性腫瘍薬	食後に投与した場合、CmaxおよびAUCが増加するとの報告がある。
	ユーゼル錠 ロイコポリン錠	ホリナートカルシウム	食事の前後1時間を避けて経口投与	抗悪性腫瘍薬	本療法は食事の影響を受けるので、食事の前後1時間を避けて投与する。
	ジスロマックSR成人用DS	アジスロマイシン水和物	空腹時	マクロライド系 抗生物質	食後2時間以上の空腹時に服用する。服用後は、次の食事を2時間以上控える。
	ストックリン錠	エファピレンツ	添付文書参照	抗ウイルス剤	食物との併用により、本剤の曝露量を増加させ、副作用の発現頻度を増加させるおそれがある。本剤は、食事の有無にかかわらず投与できるが、空腹時、可能な限り就寝時の服用が望ましい。
食事により 吸収低下	ディアコミットC ディアコミットDS分包装	ステリベントール	食中または食直後	抗てんかん剤	本剤の吸収は食事の影響を受けやすく、有効性および安全性は食中または食直後投与により確認されていることから、必ず食中または食直後に服用するよう指導する。
	ルネスタ錠	エソゾピクロン	就寝前	睡眠薬	食後投与では、空腹時投与に比べ本剤の血中濃度が低下することがある。
	ロゼレム錠	ラメルテオン	就寝前	睡眠薬	食後投与では、空腹時投与に比べ本剤の血中濃度が低下することがある。
	ベルソムラ錠	スボレキサント	就寝前	睡眠薬	食後投与では、空腹時投与に比べ、投与直後のスボレキサントの血漿中濃度が低下することがある。
	メタライト250C	塩酸トリエンチン	食前空腹時	解毒剤	食物(軽食等)//本剤の作用が減弱するおそれがある。他剤や食物(軽食等)の摂取から1時間以上の間隔をあけて投与する//本剤の吸収が妨げられるおそれがある。
	スターシス錠 ファスティック錠	ナテグリニド	食直前	糖尿病用剤	食後投与では速やかな吸収が得られず効果が減弱する。
	グルファスト錠 グルバス配合錠	ミチグリニドカルシウム水和物 ミチグリニドカルシウム水和物・ボグリボース配合剤	食直前	糖尿病用剤	食後投与では速やかな吸収が得られず効果が減弱する。

〔医療トピックス〕

食事により 吸収低下	シュアポスト錠	レバグリニド	食直前	糖尿病用剤	本剤は食後投与では速やかな吸収が得られず効果が減弱する。
	フォサマック錠 ボナロン錠 ボナロン経口ゼリー	アレンドロン酸 ナトリウム水和物	起床時	骨粗鬆症用薬	本剤は水のみで服用する。水以外の飲み物(Ca, Mg等の含量の特に高いミネラルウォーターを含む)、食物および他の薬剤と一緒に服用すると、吸収を抑制するおそれがある。
	ベネット錠 アクトネル錠	リセドロン酸ナ トリウム水和物	起床時	骨粗鬆症用薬	水以外の飲料(Ca, Mg等の含量の特に高いミネラルウォーターを含む)や食物あるいは他の薬剤と同時に服用すると、本剤の吸収を妨げることがある。
	ボノテオ錠 リカルボン錠	ミノドロン酸水 和物	起床時	骨粗鬆症用薬	水(またはぬるま湯)で服用する。水以外の飲料(Ca, Mg等の含量の特に高いミネラルウォーターを含む)、食物および他の薬剤と一緒に服用すると、吸収を妨げることがある。
	サーティカン錠	エベロリムス	添付文書参照	免疫抑制剤	投与にあたっては、食事の影響があるため、食後または空腹時のいずれかの一定の条件下で投与し、血中トラフ濃度(trough level)を測定し、投与量を調節する。
	レボレード錠	エルトロンボガ オラミン	食事の前後2時間 を避けて空腹時	血小板減少症 治療薬	食事とともに服用すると血中濃度が低下することがある。
	ユーエフティE 配合顆粒T ユーエフティ配 合カプセルT	テガフル・ウ ラシル	食事の前後1時 間を避けて投与	代謝拮抗剤	ホリナート・テガフル・ウラシル療法は食事の影響を受けるので、食事の前後1時間を避けて投与する。
	アフィニトール錠 アフィニトール分 散錠	エベロリムス	添付文書参照	抗悪性腫瘍薬	食後に投与した場合、CmaxおよびAUCが低下するとの報告がある。投与時期は、臨床試験における設定内容に準じて選択し、食後または空腹時のいずれか一定の条件で投与する。
	ジオトリフ錠	アファチニブマ レイン酸塩	空腹時	抗悪性腫瘍薬	食後に投与した場合、CmaxおよびAUCが低下するとの報告がある。
	ヴァイデックス ECC	ジダノシン	食間	抗ウイルス剤	食事の影響により吸収率が約20%低下する。
	バラクルード錠	エンテカビル水 和物	空腹時	抗ウイルス剤	食事の影響により吸収率が低下する。
ビーガード錠	モルヒネ硫酸塩 水和物	食間	あへんアルカロ イド系麻薬	海外において、高脂肪食摂取20分後投与では、空腹時投与と比べてモルヒネの血漿中濃度が低下、Tmaxが延長し、また、軽食摂取60分前投与では影響を受けなかったが、軽食摂取30分前投与では空腹時投与と比べて血漿中濃度が低下した。	
空腹時服用 により 吸収上昇	レグテクト錠	アカンプロサート カルシウム	食後	アルコール依存 症治療薬	本剤の吸収は食事の影響を受けやすく、有効性および安全性は食後投与により確認されているため、食後に服用するよう指導する。
	フィズリン錠	モザバブタン塩 酸塩	食後	利尿剤	悪心、嘔気・嘔吐等のため、食事を摂取せずに投与する場合、食後投与に比べ血中濃度が上昇し、作用が強くなるおそれがある。
	ラジレス錠	アリスキレンフ マル酸塩	食前(空腹時) または食後	血圧降下剤	服用時期は患者ごとに食後または食前(空腹時)のいずれかに規定し、原則として毎日同じ条件で服用するよう指導する。なお、本剤は、食前(空腹時)投与で食後投与に比べ血中濃度が高くなること等を踏まえ、食後投与での開始を考慮する。服用時期を変更する場合には症状の変化に特に注意する。
	ミニリンメルト OD錠	デスモプレシン 酢酸塩水和物	就寝前	脳下垂体 ホルモン剤	食後投与から食前投与に変更した場合、投与後に血漿中デスモプレシン濃度が高くなり有害事象の発現リスクが上昇する可能性があることに留意して、患者ごとに投与と食事のタイミングを検討する。
	ピレスパ錠	ビルフェニドン	食後	肺線維化抑制薬	食後投与と比べ空腹時投与では、血漿中濃度が高値を示し、副作用が現れるおそれがある。
	ロンサーフ配合 錠T	トリフルリジン・ チビラシル塩酸 塩配合剤	朝食後および夕 食後	抗悪性腫瘍薬	食後投与と比較してトリフルリジン(FTD)のCmaxの上昇が認められることから、空腹時投与を避ける。
	ロナセン散 ロナセン錠	プロナンセリン	食後	精神神経用剤	本剤の吸収は食事の影響を受けやすく、有効性および安全性は食後投与により確認されているため、食後に服用するよう指導する。
空腹時服用 により 吸収低下	ティーエスワン 配合顆粒T ティーエスワン 配合OD錠T ティーエスワン 配合CT	テガフル・ギ メラシル・オテ ラシルカリウム 配合剤	朝食後および夕 食後	代謝拮抗剤	基礎的検討(ラット)において空腹時投与ではオテラシルカリウムのバイオアベイラビリティが変化し、フルオロウラシルのリン酸化が抑制されて抗腫瘍効果の減弱が起こることが予想されるので食後投与とする。

空腹時服用により 吸収低下	スチバーガ錠	レゴラフェニブ水和物	食後	抗悪性腫瘍薬	空腹時に投与した場合、食後投与と比較して未変化体のCmaxおよびAUCの低下が認められる。高脂肪食摂取後に本剤を投与した場合、低脂肪食摂取後の投与と比較して活性代謝物のCmaxおよびAUCの低下が認められる。
	デルティバ錠	デラマニド	朝食後および夕食後	抗結核剤	空腹時に投与した場合、食後投与と比較してCmaxおよびAUCの低下が認められる。
	テラビックス錠	テラプレビル	食後	抗ウイルス剤	空腹時に服用した場合、十分な血中濃度が得られない。
	カレトラ配合内用液	ロビナビル・リトナビル	食後	抗ウイルス剤	吸収を高めるため、食後に服用する。
	サムチレール内用懸濁液	アトパコン	食後	抗真菌薬	絶食下では吸収量が低下するため、食後に投与する。食後に投与できない患者では、代替治療を検討する。
	マラロン配合錠	アトパコン・プログアニル塩酸塩	食後	抗原虫剤	配合成分であるアトパコンは絶食下では吸収量が低下するため、食後または乳飲料とともに1日1回毎日定められた時刻に投与させる。
高脂肪食により 吸収上昇	ストロメクトール錠	イベルメクチン	添付文書参照	駆虫剤	水のみで服用する。本剤は脂溶性物質であり、高脂肪食により血中薬物濃度が上昇するおそれがある。
	タルセバ錠	エルロチニブ塩酸塩	食事の1時間以上前または食後2時間以降	抗悪性腫瘍薬	高脂肪、高カロリーの食後に投与した場合、AUCが増加するとの報告がある。食事の影響を避けるため食事の1時間前から食後2時間までの間の服用は避ける。
	ラパリムス錠	シロリムス	添付文書参照	抗悪性腫瘍薬	高脂肪食の摂取後に本剤を投与した場合、血中濃度が増加するとの報告がある。
高脂肪食により 吸収低下	ニシスタゴンC	システアミン酒石酸塩	添付文書参照	解毒剤	高脂肪食摂取後または高蛋白食摂取後に投与した場合、絶食時投与よりもCmaxおよびAUCが低下したとの報告があるため、食事の影響を考慮する。
	ネクサバル錠	ソラフェニブトシル酸塩	添付文書参照	抗悪性腫瘍薬	高脂肪食の食後に投与した場合、血漿中濃度が低下するとの報告がある。高脂肪食摂取時には食事の1時間前から食後2時間までの間を避けて服用する。
	レブラミドC	レナリドミド水和物	添付文書参照	抗悪性腫瘍薬	高脂肪食摂取後の投与によってAUCおよびCmaxの低下が認められる。

C：カプセル DS：ドライシロップ

フォサマック、ベネット、ボノテオ等の骨粗鬆症治療薬は、カルシウムとキレートを作ることで吸収が抑制されてしまうため、牛乳やカルシウム、マグネシウムを多く含むミネラルウォーターでの服用は避け、服用後30分は食事を控えることが必要となります。

ロゼレム、ベルソラムの2種類の睡眠薬は食後の服用により吸収が低下し入眠効果の遅れに繋がるため、食事をしてから30分以上は間隔を空けて服用しなくてはなりません。

抗悪性腫瘍薬のなかでタシグナ、タイケルブ、ヴォトリエント、ザイティガ、ラパリムス、ゼルボラフは食事により吸収が上昇し、ユーエフティ、レブラミド、ジオトリフは食事により吸収が低下する薬剤です。ロンサーフは空腹時に吸収が上昇し、スチバーガ、ティーエスワンは空腹時に吸収が低下する薬剤です。抗悪性腫瘍薬は副作用の発現率も高く、正しく治療効果を発揮させるためにも、患者に食事の影響について説明する必要があります。

食事のなかで高脂肪食を摂ったことで影響を受ける薬剤があります。高脂肪食摂取後に服用することでタルセバ、ラパリムス、ストロメクトールは薬剤の吸収が上昇し、ニシスタゴン、ネクサバル、レブラミドは吸収が低下します。

抗ウイルス薬のなかでストックリンは食事により吸収が上昇し、ヴァイデックス、バラクルードは食事により吸収が低下します。テラビックス、カレトラは空腹時に服用することで吸収が低下します。特に、ストックリンは食後投与により吸収が高まることで、本剤の曝露量が増加し、副作用の増加に繋がるため注意が必要です。

(鹿児島市医師会病院薬剤部 坂元 優太)